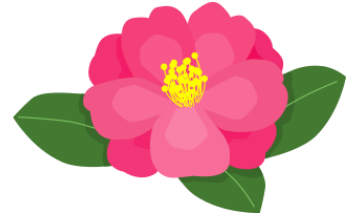




TAKING OFF

大阪学院大学/大阪学院大学短期大学部
国際センター ニュースレター

VOL. 31 WINTER, 2019



1. HELLO FROM OUR GRADUATES!

今号では現在ハワイアン航空でキャビンアテンダント(CA)をしながらパイロット資格取得を目指す遠藤 貴博さんと大阪学院大学の大学院を卒業後、京都大学の大学院で博士号取得をめざす楊 樂華さんを紹介します。二人とも大学を卒業しても学び姿勢を持ち続けています。学びは一生です!

遠藤 貴博 (2008年経営学部経営学科卒業)

私

がOGUを選んだ理由は英語を学べるプログラムが整っていたこと、またキャンパスが綺麗で勉強に集中できる環境であると感じたからです。実際に入学してみて経営学と英語を同時に学びたかった私にとって、OGUはベストな大学でした。

在学中は専攻であった経営の勉強だけではなく、英語の勉強に意欲的に取り組みました。英語を学ぶにつれ留学への夢が膨らみましたが、家族や金銭的な状況により、その夢は断念せざるを得ませんでした。一緒に勉強をしていた学生たちが次々と海外へ留学して行く姿を横目に悔しさを感じましたが、自分に与えられた環境を最大限に生かして毎日英語の上達に励みました。一番利用したのが大学内のI-Chat Loungeです。そこで英語力を高める努力をしました。

大学卒業後は数年間ハワイアン航空でグランドスタッフとして勤務し、現在はCAとして働いています。ハワイアン航空の日本便では日本人の乗客率が高いため、日本語スピーカーとして主に羽田、成田、関西とホノルルの間を行き来しています。使用機材は A330 (エアバス 330) で、飛行機一機に乗務員が10名搭乗していますが、そのうち日本語スピーカーは約3名乗務しています。主な業務内

容は、日本人のお客さまがうまく英語で客室乗務員と意思疎通が図れなかった際の日本語での対応、英語と日本語の機内アナウンスメントなどを行っています。海外で生活していく上で苦勞が絶えませんが、そのような経験から日本のお客さまの不安に寄り添えたり、また必要な情報を提供したりできることにやりがいを感じています。また、ハワイは結婚式や新婚旅行などの大きなイベントで訪れる方も多く、人生の大切な1ページに少しでも関わることができることに幸せを感じます。多くの芸能人にお会いできるのも楽しみの一つです。さらにハワイアン航空はロサンゼルスやニューヨークなどのアメリカ本土、韓国、オーストラリア、ニュージーランドなどにも運航しているため、業務でそのような土地を訪れることができるのも楽しいです。現在は航空業界での仕事を通じパイロットの仕事に惹かれ、CAとして働く傍ら、パイロットの訓練もし、更に勉強に励んでいます。

現在、CAとしてハワイアン航空で働く中、OGUでの在学中に得た異文化に対する理解がとても役立っています。ハワイはアメリカの中でも特に多様な人種が集まる場所で、共に働く同僚とうまくやっていくため、そしてお客様に素晴らしい空での時間を過ごしていただくためには異文化理解が必須です。



上からハワイアン航空の同僚たちと(本人右端)、仕事に対する姿勢と人命救助で表彰された(本人右から二人目)、パイロットの訓練(本人右)

目次

HELLO FROM GRADUATES! 1-3

CHALLENGE YOURSELF! 3-4

新規提携大学紹介
実践大学 4



益々グローバル化が進み、様々な社会的背景を持つ方々と接し続ける航空会社で働くには国際言語である英語が必須であると強く感じています。OGUで英語力向上に励んだ過程がなければ今の自分は決していなかったと思います。OGUには英語を学べる素晴らしい

環境が整っているのでぜひそれを最大限に活用してください。

ハワイでの生活や航空業界で働くことに興味や質問などがあれば、国際センターを通して連絡をいただければ喜んでお答えします。



楊 樂華 (2016年大学院商学研究科修了)

OGUでの短期研修

時 経つのは早く、日本に来てすでに4年が経ちました。初めて日本に来たのは、大学3年次生の時でした。私の母校である中国の広東海洋大学がOGUの提携大学で、OGUで実施されたサマースクールに参加しました。中国と違った空気や街並の雰囲気を感じ、様々な国からの留学生と一緒に日本語を学びながら、日本の素晴らしい文化を体験しました。特に、アジアにおける先進国である日本が、様々な先進技術を開発するだけでなく、サービス業もとても発達していることが強く印象に残りました。たった1カ月の短期研修でしたが、いつかもう一度日本に留学したいという強い思いが心に湧きあがってきました。

OGU大学院進学・交換留学

中 国の大学を卒業した後、私は台湾資本の企業で約1年間日本向けの仕事に従事しました。その間に、いろいろな日本人と交流ができ、さらに日本に対する理解が深まりました。しかし、短期研修の思い出もあり、ついに会社を辞めて、大阪学院大学大学院の

商学研究科に進学することを決意しました。

OGU大学院で2年間勉強しましたが、今振り返ってみると、その2年間の最大の収穫は私に学問の世界への扉を開いてくれたことです。大学時代、私は日本語専攻だったため、商学の専門知識がほとんどありませんでした。そのため他の学生たちに負けないように、大学院の授業を積極的に履修し、毎回きちんと授業に出席しました。そして、商学に関連する基礎知識を学ぶために、学部の授業も聴講しました。また、大学院商学研究科の田中道雄教授のもとで、マーケティングについてたくさんの知識を得ながら、自分が最も関心がある研究分野に熱意を持って取り組みました。特に、修士課程1年次生の時、田中先生に誘われて初めて学会に参加し、先生たちの発表や議論を聞

き、非常に刺激を受けました。その後、自分でも積極的に学会に参加するようになりました。修士課程2年次生の時には、ある学会で自分の修士論文のテーマについて発表する機会も得ました。その時にいろいろな先生方からアドバイスをいただき、自分の研究意欲もさらに高まりました。

そして、修士課程2年次生の後期で、オランダのフォンティス応用科学大学へ交換留学に行くチャンスを手にすることができました。オランダ留学中は英語だけでなく、マーケティングやビジネス、ヨーロッパ文化などの科目も履修しました。様々な国からの留学生と一緒に学びながら、彼らと交流し、とても良い経験になりました。それだけでなく、留学中にオランダ周辺の国を約12カ国旅行しました。ヨーロッパの文化を体験すると同時に、その後の博士課程の研究テーマも見つかりました。このように、オランダ留学は私自身の国際的な視野を広げてくれたと感じています。

京都大学大学院進学

○GU大学院で修士号取得後、京都大学大学院に進学しました。現在、私は京都大学大学院経済学研究科で博士号取得に向けて勉強をしています。優秀な学生が世界中からたくさん集まってきていて、毎日多くの刺激を受けていますが、同時に自分自身の知識不足を実感しています。その環境の中で、OGU大学院とオランダ留学で身につけた知識や経験を活かして、自分の研究テーマに真摯に取り組んでいき



(左) オランダ留学の仲間たちと(本人右端)
(上) OGU大学院の学位授与式で。成績優秀学生として修士号を授与される。



たいと思います。現在、積極的に学会発表や論文投稿をし研究者としての実績を積みながら、2科目のティーチング・アシスタントも担当しています。専門知識を勉強するだけでなく、教え方やクラスの運営方法などをしっかり学び、将来に繋げたいと考えています。

これからのキャリア

マーケティングや流通の研究に対する熱い思いがあるので、その情熱を引き続き持つことのできる環境で仕事をしたいと考えています。そのため、卒業後は日本の大学の研究者・大学教員を目指しています。また、研究成果を基盤に自分が修得した知識や経験を最大限に活かし、自分の専門分野にも貢献したいと思います。さらに、教育面では学生たちにマーケティングの面白さを分かってもらい、将来は若手研究者を育成できるように、これからも力を尽くしていきたいと考えています。



京都大学キャンパスにて

2. CHALLENGE YOURSELF!

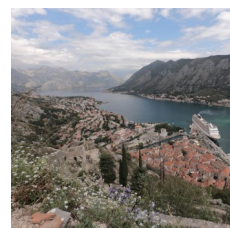
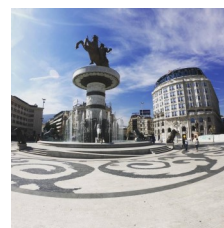
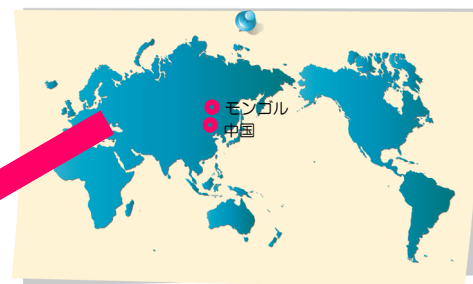
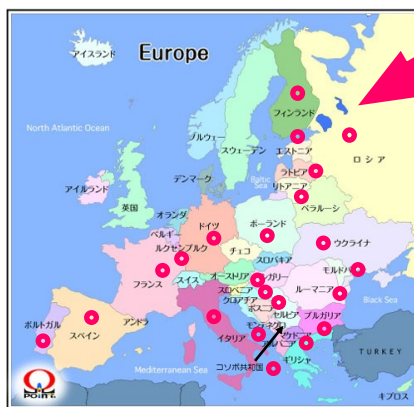
島国の日本からすると大陸横断には夢があります。2年次生の後期から3年次生の前期まで交換留学生としてドイツ・トリア大学で学んだ岩田 剛さんは、学生時代最後の夏休みを利用してユーラシア大陸横断の一人旅をしました。中国の北京からスタートしてシベリア鉄道でロシアを横断、その後ヨーロッパの国々を巡り、最後はユーラシア大陸最西端であるポルトガルのロカ岬で旅を終えました。学生ならではの挑戦。あなたも何かに挑戦してみませんか？

岩田 剛 (外国語学部4年次生)

学生最後の夏休みに、何かとてつもないことをしたいと思い、3ヶ月かけてユーラシア大陸を横断しました。今回はこの無謀な挑戦についてお話をさせていただきます。

この旅をしようと思ったきっかけですが、それは「好奇心」の一言です。海外には心惹かれる魅力があります。例えば海外には日本では体験することができない異文化、新しい発見、世界観などワクワクするものがあります。そして、それらを自分の肌で感じ、視野を広げたいと思い旅をすることを決めました。

今回の旅で私は24カ国40都市（中国、モンゴル、ロシア、フィンランド、エストニア、ラトビア、リトアニア、ポーランド、ウクライナ、モルドバ、ルーマニア、ブルガリア、マケドニア、コソボ、モンテネグロ、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、スロベニア、イタリア、ドイツ、ルクセンブルク、フランス、スペイン、ポルトガル）を訪れました。訪れた国の中



にはドイツやイタリアなどヨーロッパの王道の国もあればモルドバ、コソボ共和国などこれまで全く知らなかった国もたくさんありました。

今回の旅で出発前のイメージが180度変わった国があります。それはロシアです。ロシアといえば、笑わない国、スパイ、軍事国家、治安が悪いなど否定的なイメージが多くありました。このようなイメージがあったのでロシアへ行くことに対して少し不安がありました。しかし実際訪れてみると、店で

上から時計回りでウクライナ・リヴィアで（本人右から二人目）、マケドニア、モンテネグロ

は店員が笑顔で接客をしてくれ、私が道に迷って困っていた時もたくさんの方が助けてくれました。スーパーで買い物をしている時も知らない人がよく



話しかけてきました。ロシアでは基本的に英語が通じませんが、ロシア語が全く話せない私に対して、投げやりになることなくみんなが助けてくれます。このように多くのロシア人に接し、彼らの優しさを感じるによってこの国のイメージが変わりました。当たり前のことですが、先入観やメディアから受けるイメージだけでその国について決めつけることは良くないと思いました。百聞は一見に如かず。何事も自分の目で確かめることが大切です。

ヨーロッパといえば中世の綺麗な街並みや歴史的建造物、広大な自然など華やかなイメージがあると思います。しかし私が今回メインで訪れた東ヨーロッパの国々はまだまだ発展途上の国が多く、経済や社会情勢はあまり安定していませんでした。例えばウクライナでは地下鉄やバスなどの交通機関は1回30円程度で乗ることができます。日本の物価と比べると3分の1程度でとても旅がしやすかったです。しかし、その物価の安さの裏には内戦や隣接するロシアとの問題がありました。バルカン半島の

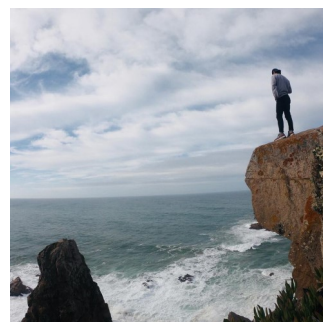
マケドニアでは3歳位の子供が物乞いをするのが普通でしたし、ボスニア・ヘルツェゴビナでは多くの建物に弾痕が残っていて、内戦の爪痕を目の当たりにしました。

私は東ヨーロッパの現実を見たことで分かったことが一つあります。それは「貧しい国」＝「治安が悪い」ではない、ということです。東ヨーロッパは貧しい国が多いと知ってから、初めは治安が良くないと思っていました。しかし、観光業に力を入れている国もあれば日本企業が進出しようとしている国もあり、何よりどの国でも夜一人で歩いていても命の危険を感じることなく観光を楽しむことができました。普通の旅行では絶対に行くことのない国を訪れ、このような発見をすることができて本当に良かったです。東ヨーロッパは物価が安く、ヨーロッパの雰囲気を感じることができるのでみなさんにも行ってもらいたいです！

私は今回の旅を含め、大学4年間で世界32カ国を訪れました。特に2年次生の時に留学したドイツが自分にとっては初海外だったので見

るもの聞くもの全てが新鮮で、刺激的な日々を過ごすことができました。他の人が経験したことのない貴重な体験をし自分自身も成長できました。

私が海外で多くの経験をしたように、他の多くの人たちにも同じ景色を見てもらいたいと思い、旅行会社で働くことに決めました。学生の皆さんには今しかできないことがたくさんあると思います。アルバイトで貯めたお金で自分の好きな物を買うのも良いと思いますが、一度海外へ行き「経験」を買うことも良いのではないかと思います。多くの学生が外国へ行き、素晴らしい経験をすることを願っています！



旅の最終目的地ポルトガル・ロカ岬



新規提携大学紹介 実践大学

2018年4月に台湾の実践大学と学術交流協定を締結し、夏には夏期海外研修が実施されました。実践大学は1958年にShih Chien College of Home Economicsとしてスタートし、1997年に現在の大学に格上げされました。台北と高雄にキャンパスがあり、2つのキャンパスでは全部で約16,000人の学生が学び、うち1,000人が留学生です。

人類生態学部、デザイン学部、経営学部、教養学部の4つの学部の中に20の学科を有する総合大学です。キャンパスにはデザイン性に優れた建物があり、特に図書館はおしゃれなカフェのようです。OGU生が交換留学生として実践大学で学ぶ場合、中国語はもちろんですが、多数の科目が英語で開講されているため、英語力のアップも見込めます。実際に実践大学の外国語学部で英語を学ぶために正規留学をしている日本人学生たちもいます。あなたも日本から3時間半で行ける台湾で語学力を磨いてみませんか？



★ ホストファミリーとホーム
ビジットファミリーを随時募集
しています。

興味をお持ちのファミリーは、詳細情報
をお送りしますので、inoffice@ogu.ac.jp
までメールでご連絡ください。

大阪学院大学／大阪学院大学短期大学部
国際センター

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号
TEL: 06-6381-8434 (代表)
FAX: 06-6381-8499
Email: inoffice@ogu.ac.jp

国際センターBLOG "Taking Off"
もご覧ください。
<http://inoffice.blog102.fc2.com/>

